A photograph of a hotel room. In the center is a bed with white linens and two red pillows. To the left is a bedside table with a lit lamp. The background features a wall with vertical stripes and framed artwork. The text 'World Journey' is overlaid in white serif font.

World  
Journey

Photograph

Ryo Awamura

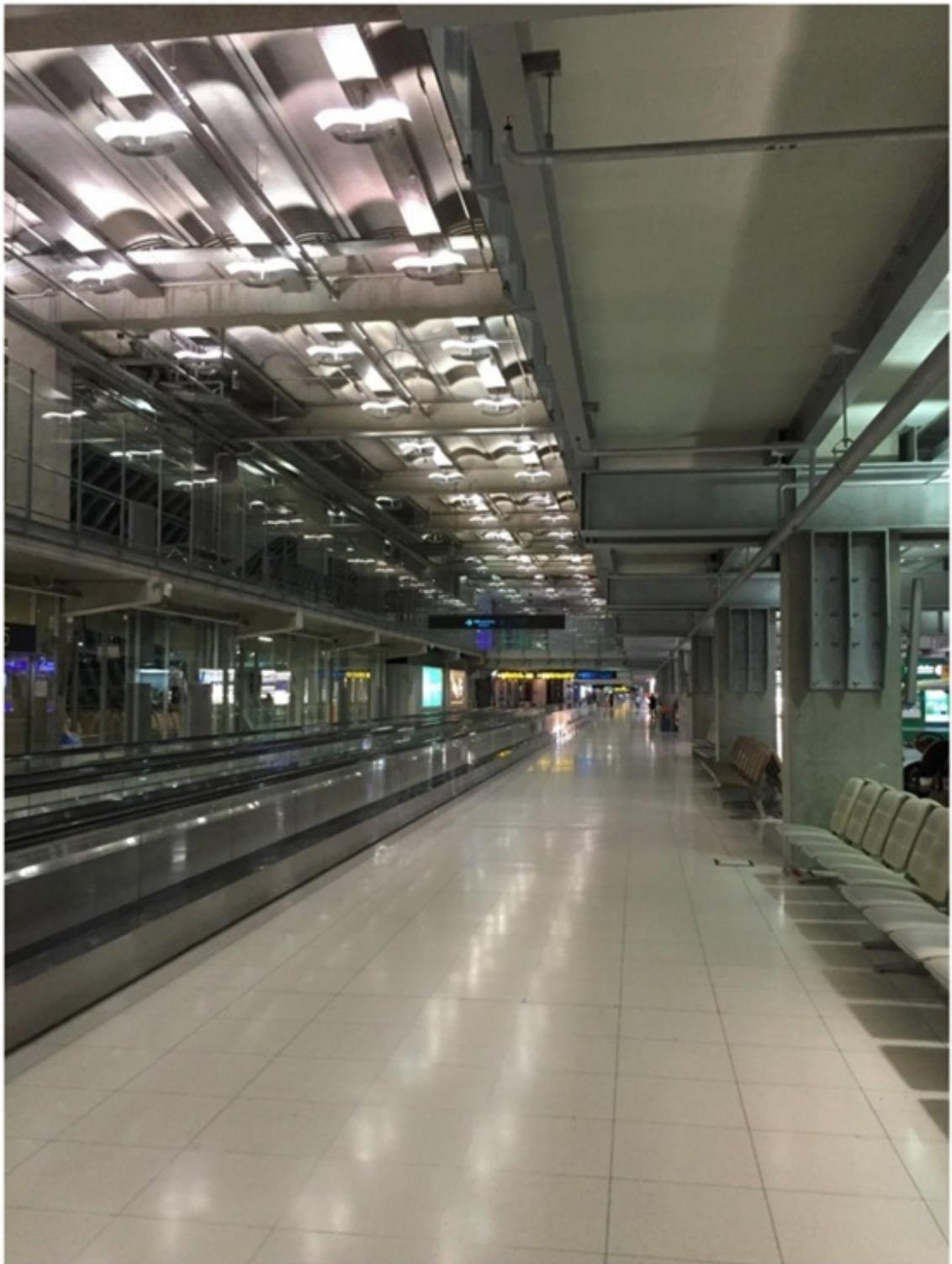


2016年5月末、僕は10数年振りにタイを訪れるために羽田空港から飛行機に搭乗。

僕は当時、タイのチェンマイに住んでいたことがある。

初めて外国に住み暮らした経験は何事にも代えがたい。

あの時の思い出を、僕はチェンマイで振り返りたくなったのだ。



AM5:00 バンコク スワンナプーム国際空港到着。



AM9:00 チェンマイ空港着。

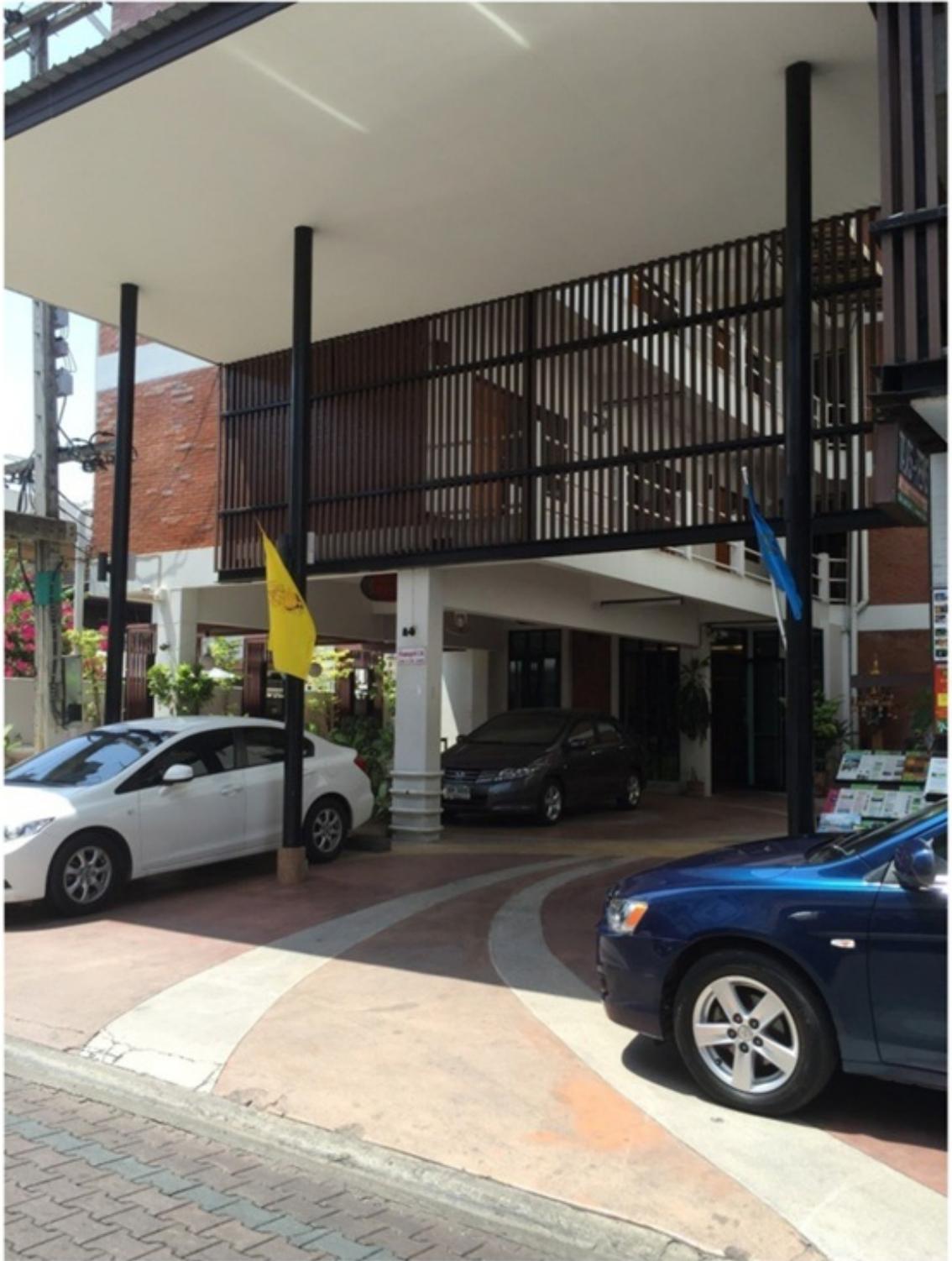
空港でタイのレンタカー会社で車を借りて旅の始まり。



最初に向かったのは、タイ鉄道の終点であるチェンマイ駅。



バンコクから到着したり、バンコクへ向かったり。  
友達を見送ったり、見送られたりした思い出深い駅。



僕がチェンマイに辿り着いて、初めて住んだアパートメント。

当時は7500円程だった。



**アパートの目の前の道。**

**直ぐ近くにお濠が在り、ターペー門が在る。**



そして次に、タイ人の友達の家に住んだ。

シャッターの奥の家だが、手前の家から番犬が出てきて奥まで入れず残念。



その近所にある市場。当時は惣菜を買ったり、焼きそばを食べたり。

雑貨も安く、とても重宝した。



**最終的に、僕はこのコンドミニアムに住むことになる。**

**9000円程で、物凄く快適だった。**



エントランス。



中庭で勉強したり。



1Fにはレストラン、コンビニ、クリーニングが在り便利。



コンドミニアムはチェンマイの外れに位置し、チェンマイ国立大学にも近い。

目の前が山に囲まれていて、目を覚ました時の眺めが素晴らしかったのを覚えている。



コンドミニアムから車で30分、山道を登るとドイステープと呼ばれる寺院がある。

寺院の多いチェンマイで、観光客に一番人気のある寺院。



**チェンマイの街を一望できる。**

**更にここからバイクで林道を1時間ほど走ると村に辿り着く。**



昔住んでいた家にドイステープを周り、ホテルに向かった。

値段以上に快適なホテルだった。



ウェルカムフルーツ。

タイはフルーツが豊富なので、安くて美味しい。



夕食は地元民で賑わう食堂。

ここでしか味わえないローカルな料理を味わう。



お馴染みタイ風ラーメン。

スープは豚の血入り。



近場の移動はスクーターを利用。

10年前と比べて街を走るバイクや車の数が大幅に増えていて走るのが難しかった。



翌日は車でチェンマイ郊外にある貯水池へ。

東屋で自由にノンビリとでき、貯水池に浮かぶ筏がレストランにもなっている。



**観光客が殆ど居なく、風が心地よかった。**

**この貯水池で取れる、エビの踊り食いが有名である。**



**各東屋を自由に利用出来、この裏にあるお店から料理を運んでくれる。**



ここで料理を作っていた。



タイマッサージが在ったので、2時間ほどマッサージをしてもらおう。



掃り道でチェンマイ名物のカオソーイ。

カレー味のヌードルで90円。



チェンマイに戻り、夕方は観光客が集まるターペー門へ。

辺りに観光客向けのオシャレなお店が集まっている。



タイと言えばトゥクトゥク。

しかし、割に高いので今回は利用しなかった。



チェンマイの夕方風景。



チェンマイ門近くの市場。

ターペー門と比べて、庶民的な一角。



フルーツ盛り沢山。



魚介もね。



アパレル、雑貨の露店も沢山。



3000円で、靴買いました。



繁華街を外れると、チェンマイの夜はこんな感じ。

明日はバンコクへ。



**翌日の朝、チェンマイ空港を出発し、再びバンコク。**

**渋滞が物凄く、このエネルギーがバンコクらしさと言える。**



地下鉄やモノレールが整備され、大都会となったバンコク。

しかし国鉄のローカルな駅は、昔のバンコクを思い起こさせてくれる。



バンコクでは、まずお土産。

タイシルクで有名なジムトンプソン。綺麗なバックやアパレルを見るだけでも楽しい。



ネット通販では買えない、新着がディスプレイされている。

他国のブランドと比べて、安いのでお勧め。



お土産を買い、ホテルに向かう途中のルンビニー公園で。

オオトカゲを発見。



スクンピットのホテルに荷物を置いた後、バンコク中央駅へ。

当時、この駅から北はチェンマイへ。南はマレーシアへと僕は向かっていった。



鉄道の利用が多かった僕の常宿。駅の真ん前。

当時は750円で、中の雰囲気はかなり怪しい。



ホテルに隣接していた定食屋。

大体、60円程度でどれも食べられる。



駅構内。

各々の列車の出発を待つ人々。



出発を待つ列車。



バンコク中央駅の割に長閑な雰囲気。



**3等車、他に寝台の2等、個室の1等がある。**

**定刻通りにまず到着しない。**



駅を出て、チャイナタウンへ向かった。

中華料理の店や、夜は屋台で賑わう。



そして、バックパッカーの聖地、カオサンロード。

多くの観光客で賑わっていた。



カオサンならではの風景。



日が暮れてきたので、タイ東北料理の屋台で有名な Lumpini Park に戻る。

夕暮れの池が幻想的。



随分と人が集まってきている。



**これが食べたかった東北料理。**

**想像を絶する辛さ。**



こんな感じの土鍋。

こうしてバンコクの夜は終わった。



スーパーにはタイ料理を簡単に作れる商品が非常に増えていた。

パッタイ、カレー、トムヤムクン等が有りお土産に重宝されると思う。



翌日、スワンナブーム国際空港へ戻った僕は短く充実した旅を終えることになった。

そして10年の時を経て、漸く今の僕の人生とタイがこれから再びリンクしていくことであろう。

やっとやっと、チェンマイに戻ってくることができた。

チェンマイは僕の青春だった。

チェンマイを離れる時に、僕は誓った。

日本での人生で納得がいくまで、チェンマイには戻ってこない。

それから**10**年以上の歳月が経ち。

僕は日本でやるべきことをやり、漸くチェンマイに戻ってくることができた。

そしてこれからの10年は、いよいよ日本とタイをクロスしていく新しい扉を開いていく。

## World journey photo

<http://p.booklog.jp/book/106879>

著者 : ryoawamura

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/ryoawamura/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/106879>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/106879>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ